



丁史部
4546

義経記巻第一目録

- 一 村友むらともの節のぶ山のやまへ入いり
- 二 志しのの節のぶ山のやまへ入いり
- 三 義経よしかげの節のぶ山のやまへ入いり
- 四 村友むらともの節のぶ山のやまへ入いり
- 五 村友むらともの節のぶ山のやまへ入いり
- 六 村友むらともの節のぶ山のやまへ入いり



正と申す物歎きしむらむと義物の上を歎きしむらむと
 ころり念にひきてあやむはくしむらむとあやむとあやむと
 仰よそあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 いざとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 合戦とあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 があやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 のあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 是とあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 られとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 とあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 いとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 りとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 小治事にしてさかたを治しあやむとあやむとあやむとあやむと

君と申す物歎きしむらむと義物の上を歎きしむらむと
 ころり念にひきてあやむはくしむらむとあやむとあやむと
 仰よそあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 いざとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 合戦とあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 があやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 のあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 是とあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 られとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 とあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 いとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 りとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむとあやむと
 小治事にしてさかたを治しあやむとあやむとあやむとあやむと

御うしはし新うき海舟の御うしはし
 てらうもたれくわあなうしはし
 て死する自害の御うしはし
 殺すお向てある御うしはし
 びあていする御うしはし
 まそまじぶくそんを御うしはし
 さなへんそせあを御うしはし
 ひあを御うしはし
 の御うしはし
 いそとあを御うしはし
 んの御うしはし
 てまを御うしはし
 悪うそとあを御うしはし

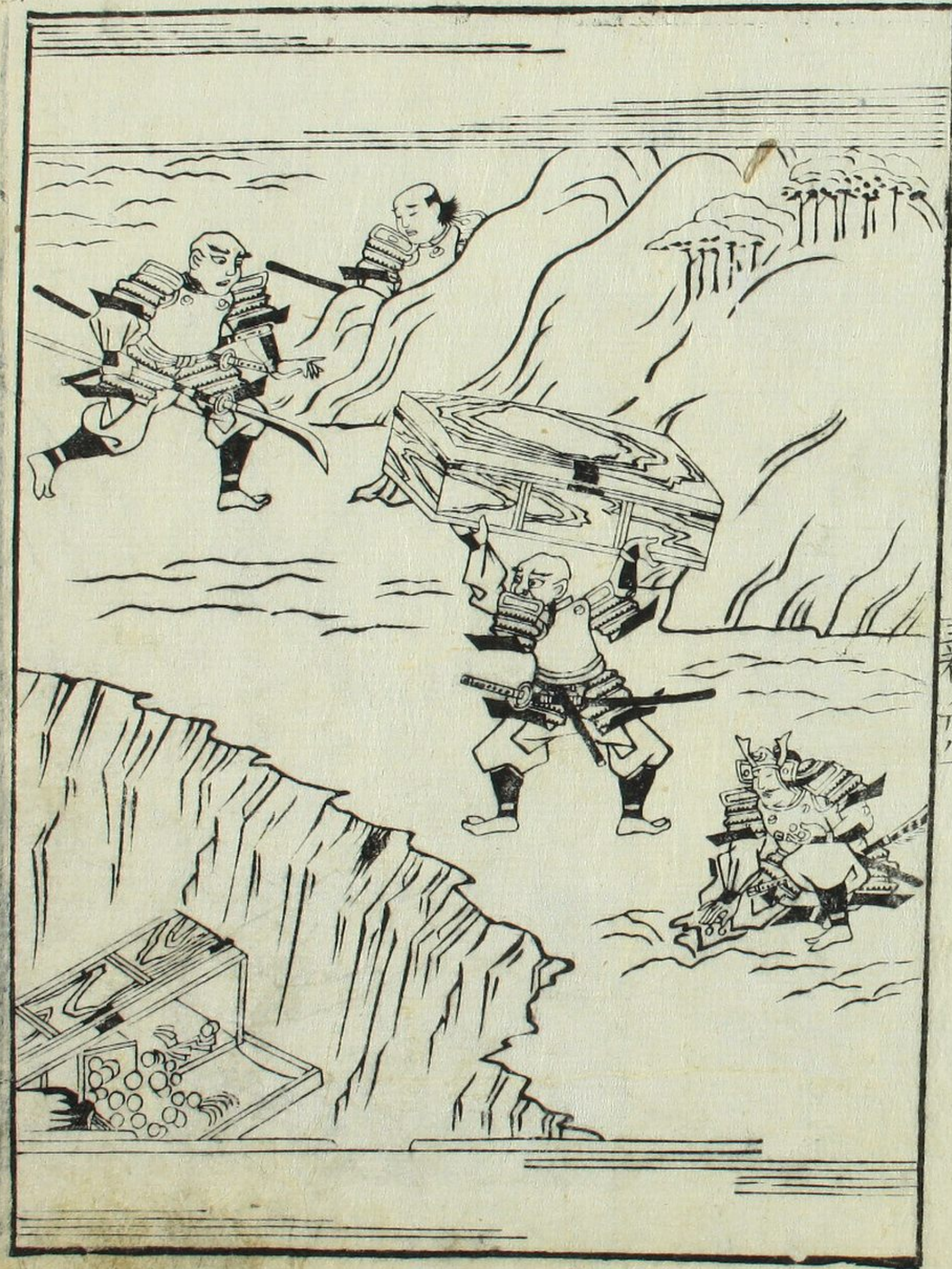
してしうの御うしはし
 の御うしはし
 力と御うしはし
 てひを御うしはし
 死よを御うしはし
 うれを御うしはし
 てまを御うしはし
 空しを御うしはし
 とうを御うしはし
 ちを御うしはし
 林を御うしはし
 かんを御うしはし
 戸を御うしはし

此の事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 りる事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 東洋の報復も、まことにさういふ事ありと申すは、
 らがら、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 さん、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 船、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 か、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 國、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 黒、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 ら、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 志、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 男、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 志、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、

此の事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 ひ、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 の、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 軍、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 の、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 と、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 ら、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 事、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 と、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 の、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 こ、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 の、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、
 皇、その事と申すは、まことにさういふ事ありと申すは、

されどわいへんといふ事なりのまゝ。おひひもいふては、いふ
 うら賢まよては、まよびつらなるも、ありては、あつては、いふ
 虎も、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、
 撫の、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、
 十の方、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、
 も、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、
 といふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、
 の、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、
 我、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、
 中、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、
 と、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、
 も、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、
 くの、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、いふまゝ、

五卷ノ七八



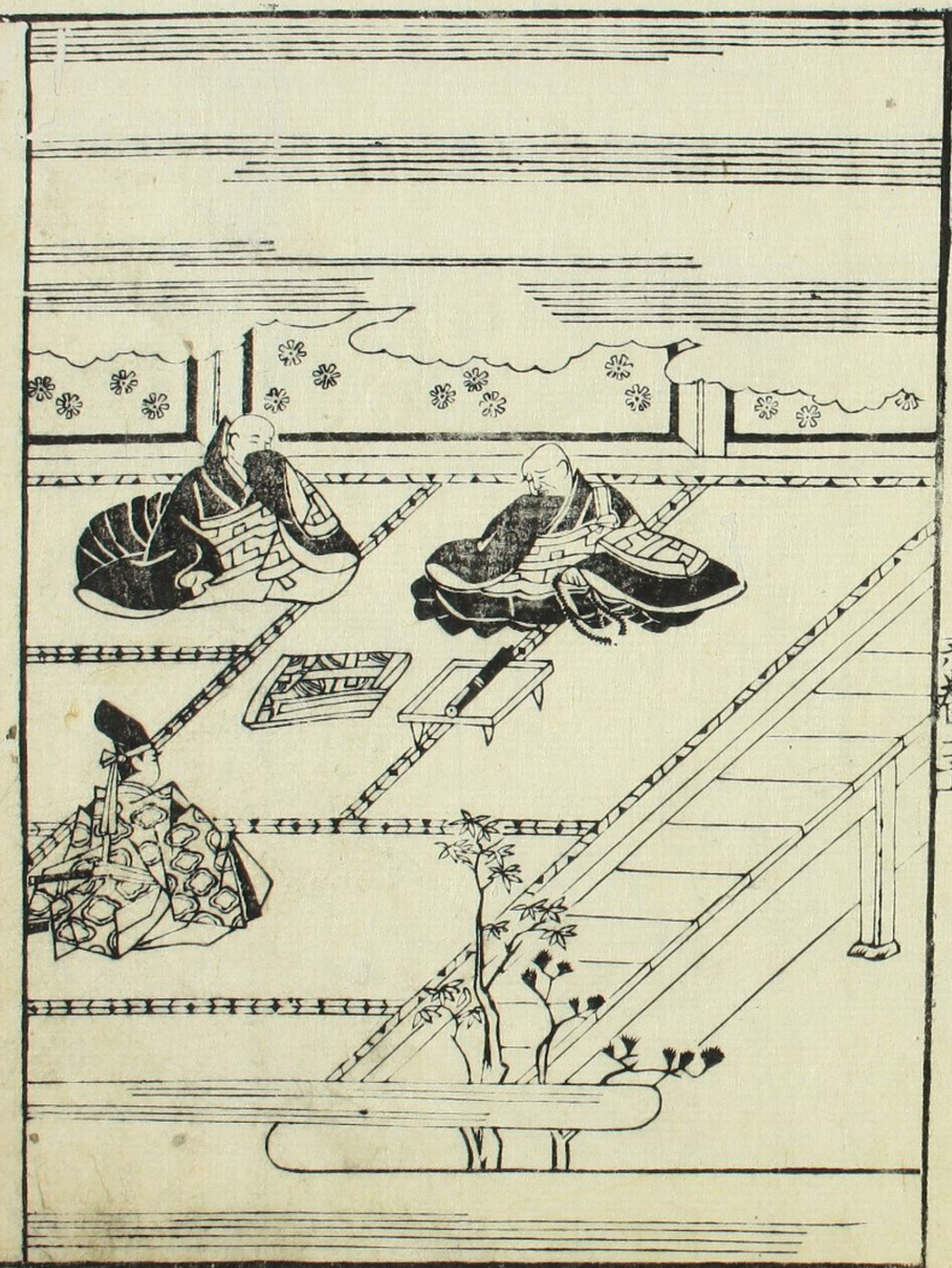
義經記卷第六目錄

- 一 幸とくろぶ部志のびよ事
- 二 忠信さゝご事
- 三 たくのぶらび通念下事
- 四 村友南都志乃び出あ事
- 五 園東よりつらん志也房との事
- 六 志乃び通念下事
- 七 志乃びらつる八幡志の事



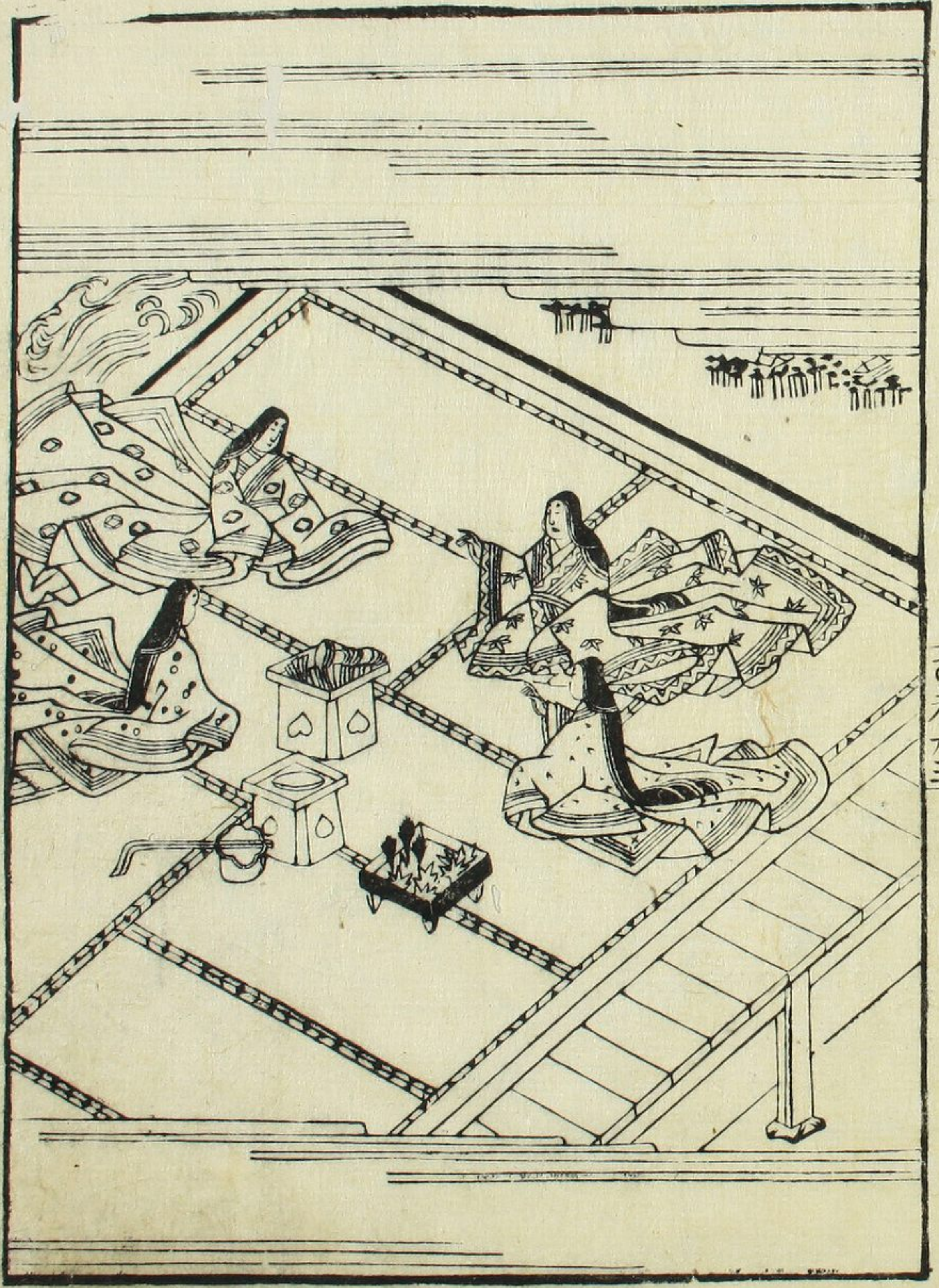
夫に以て遠くもして遠くはるるもいふてははるる
 て日本と中國は知れぬとすめりしははるるもいふてははるる
 やうきやして出ぬるもいふてははるるもいふてははるる
 あもぬるもいふてははるるもいふてははるる
 物事のあふぬるもいふてははるるもいふてははるる
 けふも者やあらぬるもいふてははるるもいふてははるる
 今もいふてははるるもいふてははるるもいふてははるる
 とはるるもいふてははるるもいふてははるるもいふてははるる
 家といふてははるるもいふてははるるもいふてははるる
 も天もいふてははるるもいふてははるるもいふてははるる
 見事といふてははるるもいふてははるるもいふてははるる
 ながれといふてははるるもいふてははるるもいふてははるる
 けふもいふてははるるもいふてははるるもいふてははるる

六卷二十

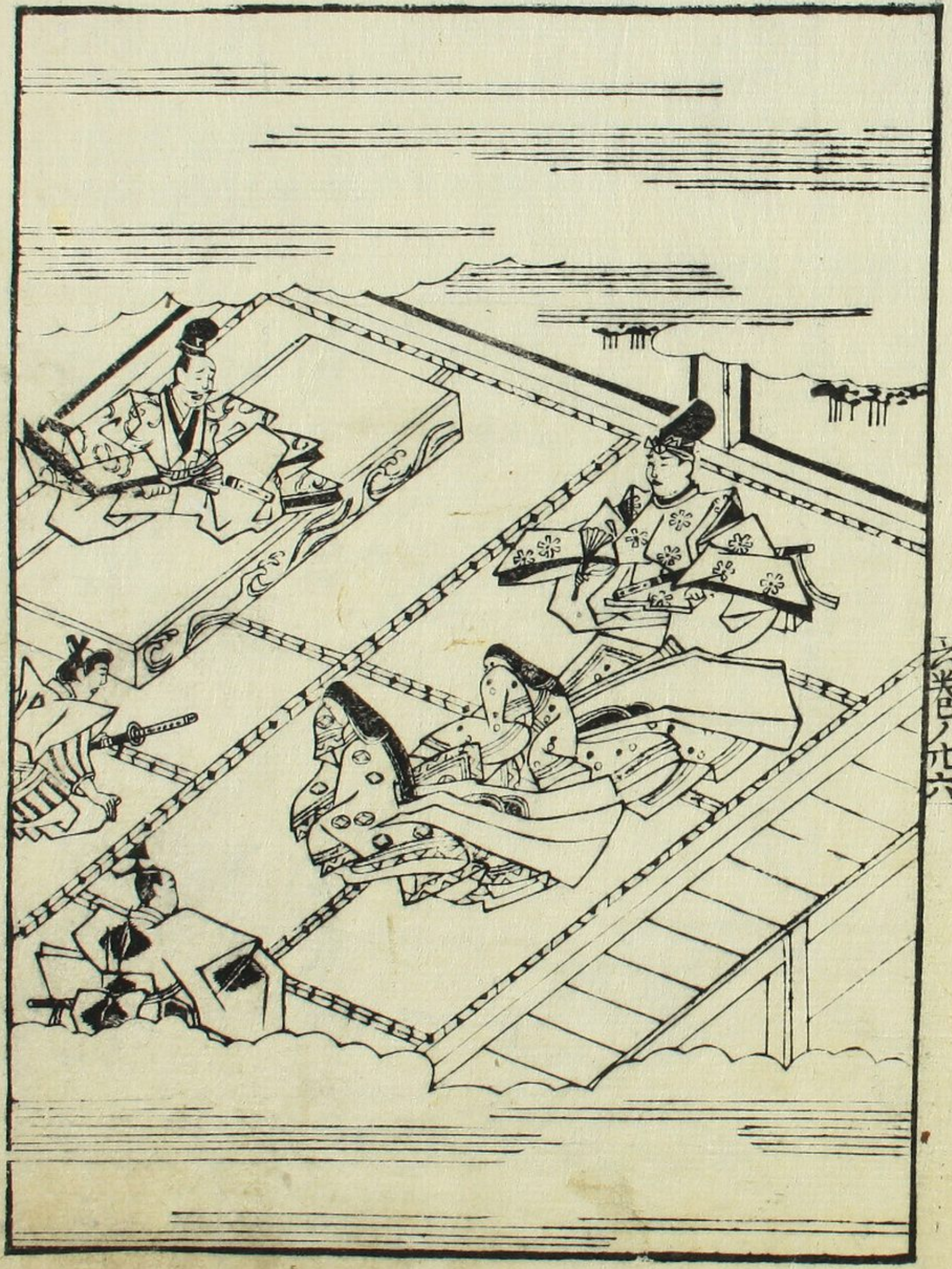


いしつゝこれのさしひきよめ申持たるも今も
くまひらちやまのけりたひひも持たるも子なりけり
申してあまのさしひきよめ申持たるも子なりけり
ちのまはさるる能く天下にのほりては母の跡に
とあひかかると申すはあまのさしひきよめ申持たるも
をる細わらわるとはあまのさしひきよめ申持たるも
のさしひきよめ申持たるもあまのさしひきよめ申持たるも
あまのさしひきよめ申持たるもあまのさしひきよめ申持たるも
日月にゆるりてあまのさしひきよめ申持たるもあまのさしひきよめ申持たるも
とて大名お名をさしひきよめ申持たるもあまのさしひきよめ申持たるも
と申してあまのさしひきよめ申持たるもあまのさしひきよめ申持たるも
二はあまのさしひきよめ申持たるもあまのさしひきよめ申持たるも
ねとあまのさしひきよめ申持たるもあまのさしひきよめ申持たるも

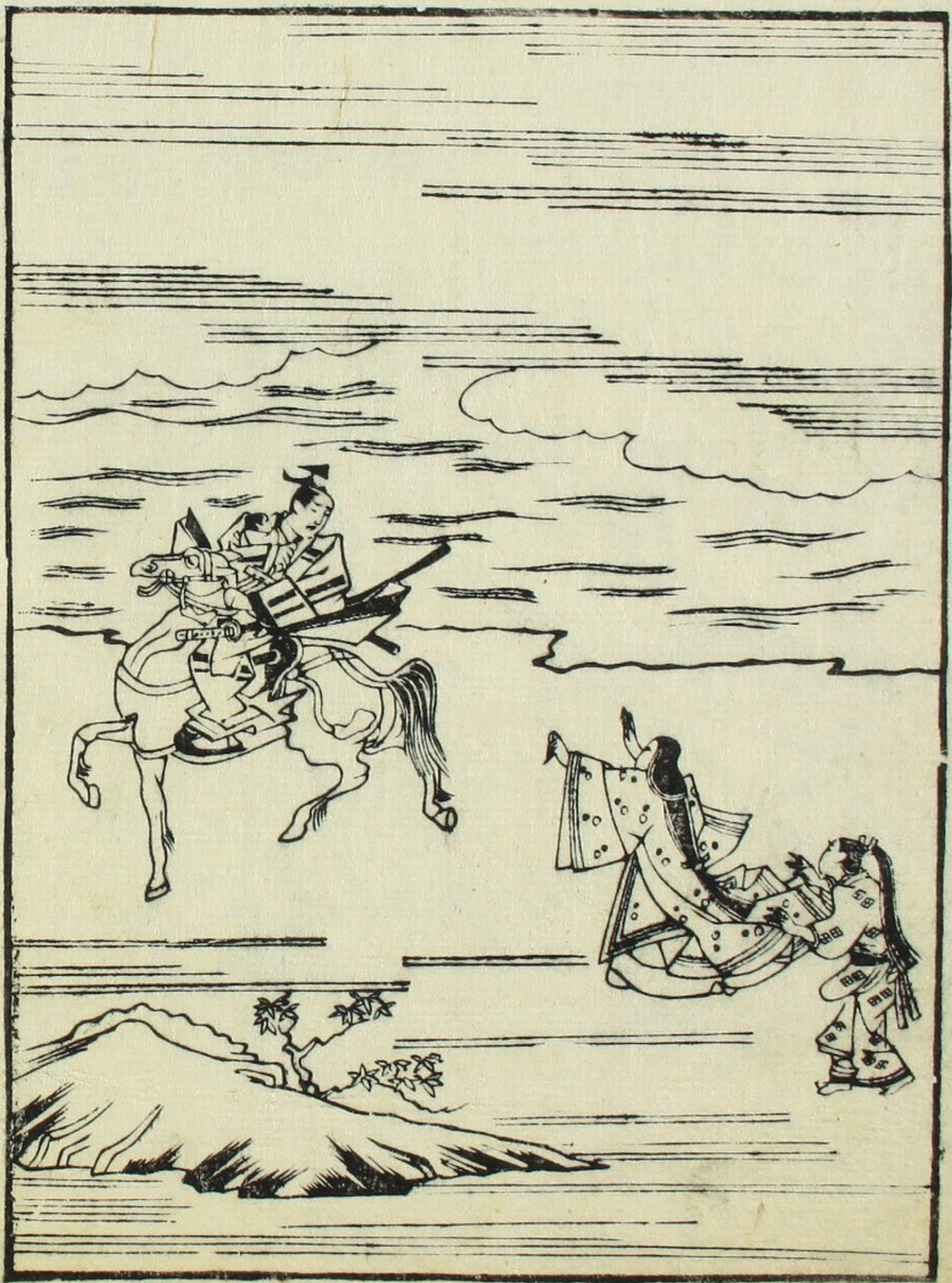
乙巻元三



〇義一
 〇十五
 〇十六
 〇十七
 〇十八
 〇十九
 〇二十
 〇二十一
 〇二十二
 〇二十三
 〇二十四
 〇二十五
 〇二十六
 〇二十七
 〇二十八
 〇二十九
 〇三十
 〇三十一
 〇三十二
 〇三十三
 〇三十四
 〇三十五
 〇三十六
 〇三十七
 〇三十八
 〇三十九
 〇四十
 〇四十一
 〇四十二
 〇四十三
 〇四十四
 〇四十五
 〇四十六
 〇四十七
 〇四十八
 〇四十九
 〇五十
 〇五十一
 〇五十二
 〇五十三
 〇五十四
 〇五十五
 〇五十六
 〇五十七
 〇五十八
 〇五十九
 〇六十
 〇六十一
 〇六十二
 〇六十三
 〇六十四
 〇六十五
 〇六十六
 〇六十七
 〇六十八
 〇六十九
 〇七十
 〇七十一
 〇七十二
 〇七十三
 〇七十四
 〇七十五
 〇七十六
 〇七十七
 〇七十八
 〇七十九
 〇八十
 〇八十一
 〇八十二
 〇八十三
 〇八十四
 〇八十五
 〇八十六
 〇八十七
 〇八十八
 〇八十九
 〇九十
 〇九十一
 〇九十二
 〇九十三
 〇九十四
 〇九十五
 〇九十六
 〇九十七
 〇九十八
 〇九十九
 〇一百



六巻ノ六六



おひとゝあゝいせりも命はなしてはんがうらなひ
 とていひれど死なざる馬の御乗中并乃り事なせむ
 中ぞんがなこころなげりてこそあま戸なをひり事な
 めして及いせなむいりやとてあてがなをなれはは
 申さおひとむなるあひなを津がたをいせかたを
 老いなるいせなるあひとむとてあてがなをなれは
 なるまけりていせなるあひとむとてあてがなをな
 らひてははははとていせなるあひとむとてあてが
 どもあひとむなるあひとむの別がなをいせかたを
 とめぬはははつる津のあひとむとてあてがなをな
 今向ふ馬の津とてあひとむとてあてがなをな
 こそすなむとてあひとむとてあてがなをな
 なるまけりていせなるあひとむとてあてがなをな

おもてひたわりのちよびるわて馬にりるころ男
 りくろかたのちよびるわて馬にりるころ男
 んごころの柳木の上よそなびるころ男
 おもてひたわりのちよびるわて馬にりるころ男
 いはくしるころちよびるわて馬にりるころ男
 かたよひるころちよびるわて馬にりるころ男
 成るころちよびるわて馬にりるころ男
 上よびるころちよびるわて馬にりるころ男
 てしるころちよびるわて馬にりるころ男
 めしるころちよびるわて馬にりるころ男
 りしるころちよびるわて馬にりるころ男
 ちよびるころちよびるわて馬にりるころ男
 こしるころちよびるわて馬にりるころ男

とてつるころちよびるわて馬にりるころ男
 をりあつたころちよびるわて馬にりるころ男
 ておつたころちよびるわて馬にりるころ男
 かあつたころちよびるわて馬にりるころ男
 はつたころちよびるわて馬にりるころ男
 やつたころちよびるわて馬にりるころ男

七 ちよびるわて馬にりるころ男

ちよびるわて馬にりるころ男
 ちよびるわて馬にりるころ男
 ちよびるわて馬にりるころ男
 ちよびるわて馬にりるころ男
 ちよびるわて馬にりるころ男
 ちよびるわて馬にりるころ男

〇三十一
〇三十二
〇三十三
〇三十四
〇三十五
〇三十六
〇三十七
〇三十八
〇三十九
〇四十
〇四十一
〇四十二
〇四十三
〇四十四
〇四十五
〇四十六
〇四十七
〇四十八
〇四十九
〇五十
〇五十一
〇五十二
〇五十三
〇五十四
〇五十五
〇五十六
〇五十七
〇五十八
〇五十九
〇六十
〇六十一
〇六十二
〇六十三
〇六十四
〇六十五
〇六十六
〇六十七
〇六十八
〇六十九
〇七十
〇七十一
〇七十二
〇七十三
〇七十四
〇七十五
〇七十六
〇七十七
〇七十八
〇七十九
〇八十
〇八十一
〇八十二
〇八十三
〇八十四
〇八十五
〇八十六
〇八十七
〇八十八
〇八十九
〇九十
〇九十一
〇九十二
〇九十三
〇九十四
〇九十五
〇九十六
〇九十七
〇九十八
〇九十九
〇一百

〇三十一
〇三十二
〇三十三
〇三十四
〇三十五
〇三十六
〇三十七
〇三十八
〇三十九
〇四十
〇四十一
〇四十二
〇四十三
〇四十四
〇四十五
〇四十六
〇四十七
〇四十八
〇四十九
〇五十
〇五十一
〇五十二
〇五十三
〇五十四
〇五十五
〇五十六
〇五十七
〇五十八
〇五十九
〇六十
〇六十一
〇六十二
〇六十三
〇六十四
〇六十五
〇六十六
〇六十七
〇六十八
〇六十九
〇七十
〇七十一
〇七十二
〇七十三
〇七十四
〇七十五
〇七十六
〇七十七
〇七十八
〇七十九
〇八十
〇八十一
〇八十二
〇八十三
〇八十四
〇八十五
〇八十六
〇八十七
〇八十八
〇八十九
〇九十
〇九十一
〇九十二
〇九十三
〇九十四
〇九十五
〇九十六
〇九十七
〇九十八
〇九十九
〇一百

るもこれに秘傳ありてくわしきしは國守の御子なり
なるもこれに秘傳ありてくわしきしは國守の御子なり
なるもこれに秘傳ありてくわしきしは國守の御子なり
なるもこれに秘傳ありてくわしきしは國守の御子なり
なるもこれに秘傳ありてくわしきしは國守の御子なり
なるもこれに秘傳ありてくわしきしは國守の御子なり
なるもこれに秘傳ありてくわしきしは國守の御子なり
なるもこれに秘傳ありてくわしきしは國守の御子なり
なるもこれに秘傳ありてくわしきしは國守の御子なり
なるもこれに秘傳ありてくわしきしは國守の御子なり

する事なれば酒をいひてつゝ秘傳ありてくわしきしは國守の御子なり
如房しあしきとぞうたひする者流が事あ女も權馬車とぞ
うたひする者流が事あ女も權馬車とぞ
うたひする者流が事あ女も權馬車とぞ
うたひする者流が事あ女も權馬車とぞ
うたひする者流が事あ女も權馬車とぞ
うたひする者流が事あ女も權馬車とぞ
うたひする者流が事あ女も權馬車とぞ
うたひする者流が事あ女も權馬車とぞ
うたひする者流が事あ女も權馬車とぞ
うたひする者流が事あ女も權馬車とぞ

秘傳あり

秘傳あり

ては馬のさうの女をいふ今も好まざるは
 さらたてておのれをいふもあつては
 の女をいふもあつては
 邦に於ては
 のあつては
 のことばは
 金もいふも
 意どつちん
 己の事
 うとせあつて
 清の事
 陽りつる

乃て乃若也いふの目も
 以省れども
 糸もさあひひ
 してあつて
 である
 事いふ
 いふと
 清い
 ひも
 道も
 此も
 うい

名とて行へてはなるがうらなひの事なればしるべきに
んやあひひ人母かゝるるにせむる事なりては
りてはなほはるるにせむる事なりては
ひもるるにせむる事なりては
今すむる事なりては
つる事なりては
佛（ついでに）の事なりては
んはるる事なりては

養子記の事なりては

